

DOWAS NEWS

2013

Vol16 No.1



DSW 縁の下の力持ち (7) ～深層水を支える人々～
熊石海洋深層水総合交流施設
黒丸 勤 (八雲町 熊石総合支所 海洋深層水推進室 推進係長) … 1

海洋深層水利用学会 2013 年度 定期総会報告
海洋深層水利用学会事務局 … 3

海洋深層水利用学会 2013 年度 第 1 回理事会報告
海洋深層水利用学会事務局 … 4



海洋深層水利用学会

DSW 縁の下の力持ち⑦ ～深層水を支える人々～

熊石海洋深層水総合交流施設

黒丸 勤（八雲町 熊石総合支所 海洋深層水推進室 推進係長）

北海道の八雲町「熊石海洋深層水総合交流施設」は、平成15年12月1日に本格取水を開始し、以来、水産・農産・食品利用の研究や事業用分水を行いつつ、今年度で10周年となりました。

日本海の深層水は他の海と交換されることがなく、内部でのみ循環されています。これが一般的に「日本海固有水」と言われており、熊石海洋深層水は「日本海固有水」を指しています。カルシウム・マグネシウム等のミネラル成分が豊富で、栄養塩は表層水の10倍になると言われています。

この海洋深層水を利用し、町内で唯一「塩づくり」をしている方が、熊石深層水株式会社の代表取締役刀禰清貴（とね きよたか）氏です。刀禰氏は「熊石の深層水は、一年を通じて水温は1℃前後と安定し、太平洋側に比べると非常に低温のため高品質であるのが特徴です。しかし、ただ単に「煮詰めて」いくのではなく、うまい塩を作るためには、煮詰め方にも工夫しています。納得のいく塩が完成するまでに、3年半という月日を費やしました。」と語っていました。

そこで、今回は刀禰氏の「こだわりの塩づくり」をご紹介します。

「昔ながらの塩を作りたい」という思いから、平釜を使い3日かけてじっくり煮詰める製法が選ばれました。工業技術センター北海道立工業試験場が協力して釜を設計し、同センターの紹介で有限会社道南産機が釜を製造しました。たくさんの人が協力して、漁船が使用した廃油も燃料に使えるバーナーが造られました。町の将来を想い、一心不乱に塩作りを目指す刀禰氏の周りにはいつの間にか大きな人の輪が出来ていました。「ここまで一心にやるなら手伝おう」と仲間が集まりました。

釜が出来、塩が精製出来るようになりました。しかし、味が問題でした。次なる目標は「美味しさ」になり、そこで「藻塩（もしお）を作ったらいいん

じゃないだろうか？」という話が出て、万葉集で「淡路島 松帆の浦に 朝風に 玉藻刈りつつ 夕風に 藻塩焼きつつ 海人おとめ」と読まれるように「藻塩」の歴史は古く、それだけ長く日本人に好まれてきた塩なのだから、さぞや美味しいだろう。だが、中々美味しい塩が出来ず、悩む日々が続きました。藻塩は、かつて玉藻と呼ばれたホンダワラという海藻で作られ、熊石で獲れる出汁昆布（細目昆布）は、その昔松前藩の藩主にも献納されていた程味のよい昆布でした。

深層水から塩を抜き、ミネラルの豊富な水にして、そこへ熊石の昆布を浸し、昆布のエキスを抽出し、それをさらに煮出して塩を精製しました。出来上がった塩は、塩カドがなく、優しく上品な味わいになり、「これだ！」ついに理想の藻塩を作れるようになり、仲間に報告しました。仲間達は、刀禰氏が苦心していたところをずっと見てきていたので、その苦勞をくんで、弁理士である小越氏が「これを「万葉の詩塩（うたしお）」と名付けたらどうだろう？」と提案し、満場一致「それはいいなまえだ！」と名称が決まりました。

今、日本の海洋深層水は農業や漁業など、たくさんの分野で活躍されていますが、一方、アメリカの海軍では、温度差発電で水素を作る計画がされています。熊石深層水株式会社で作られた「万葉の詩塩」も、北海道内のさまざまな食品メーカー、飲食店で活躍しています。熊石の深層水と塩は、人々の輪の中でそれぞれに活かされている事でしょう。思うようにいかず、眠れぬ日々もあつたらう。それをどんな想いで乗り越えて来たのかを訪ねてみました。

刀禰氏曰く「町の外へ出て行った子ども達が帰って来た時に、働くところがないと暮らせないからねえ。」とぼつり一言。

いつの時代も親達は子どもを育て、子がまちの外に就職した後も、子どもが帰って来てからの事を考

えているものです。まさに、よく昔の人が言った「子は、親の背中を見て育つもの」が頭に蘇りました。熊石深層水株式会社だけでなく、八雲町の熊石地域全体がとてもあたたかく見えました。



「万葉の詩塩」の製塩風景



刀禰清貴（とね きよたか）さん （会社前にて）

海洋深層水利用学会 2013 年度定期総会報告（事務局）

【総会概要】

日時：2013 年 5 月 21 日（火）15：00～15：40

場所：東京海洋大学 品川キャンパス

白鷹館 2 階 多目的スペース 1

【配布資料】

海洋深層水利用学会 2013 年度定期総会議案書

【議事】

1. 2012 年度活動報告

事務局より、議案書 1 頁～4 頁に基づき 2012 年度事業報告があった。

2. 2012 年度決算報告

事務局より、議案書 5 頁～6 頁に基づき 2012 年度決算報告があった。

3. 2012 年度監査報告

事務局より、議案書 7 頁に基づき 2012 年度会計監査報告があった。

4. 2013 年度事業計画告

事務局より、議案書 8 頁～9 頁に基づき 2013 年度事業計画について説明があり、名誉会員規定ならびに学会賞規定を盛り込んだ会則の改定案（議案書 10 頁～13 頁）ならびに学会賞内規案（議案書 14 頁）を含め、異議なく承認された。但し、議案書 13 頁（学会賞）第 18 条

2. 学会賞受賞者を選考するため、必要の都度、授賞審査委員会を設ける。 については

↓

2. 学会賞受賞者を選考するため、授賞審査委員会を設ける。

に訂正をした案が示され、それが承認された。名誉会員規定の承認を受け、酒匂敏次前会長を名誉会員とする案が示され、異議なく承認された。

5. 2013 年度予算

事務局より、議案書 15 頁に基づき 2013 年度予算案について説明があり、原案通り承認された。

以上

海洋深層水利用学会 2013 年度第 1 回理事会報告（事務局）

【総会概要】

日時：2013 年 5 月 21 日（火）15：00～15：40

場所：東京海洋大学 品川キャンパス

白鷹館 2 階 多目的スペース 1

【議事】

≪2013 年度活動計画ならびに報告・審議事項≫

1. 研究発表企画委員会より

清水委員長・黄秉益氏より講演会資料に基づき説明があった。

■2013 年度第 17 回研究発表会（台湾大会）について以下を確認した。

【1】講演要旨集（「海洋深層水研究」第 14 巻第 2 号）について

- ・印刷は台湾側で行う。
- ・発表一題につき、日本語と英語・中国語と英語で印刷する。
- ・日本語の英文翻訳で助けが必要な場合は、高橋会長・井関論文誌編集委員長に相談する。

【2】同時通訳について

- ・日本語及び中国語の講演には、それぞれ専門の中国語及び日本語の同時通訳がつく。通訳者は海洋深層水の国際会議の同時通訳を複数回経験しているが、念のために 1 週間ほど前には通訳者が講演用のパワーポイントスライドのチェックができるように準備する。

【3】大会参加費について

- ・日本国内からの参加者については例年通り事前振込みを案内する。現地払いの場合日本円相当額の台湾元で支払うことになる。

【4】懇親会について

- ・会場近くのホテルを手配する予定である。
- ・懇親会費は 1,000 円の予定。現地にて台湾元での支払いにする。

（現在の交換レートは 1 元≒3.3 円）

【5】交通と宿泊について

- ・日本からは、羽田空港（HND）－台北松山空港（TSA）－花蓮空港（HUN）の全行程空路移動が便利である。
- ・花蓮空港から会場の東華大学までは約 10 km・バスで約 30 分である。
- ・宿泊ホテルの 1 泊料金はおよそ 2,000 元～2,500 元である。

2. 論文誌編集委員会より

井関委員長代理・大塚理事より説明があった。

■「海洋深層水研究」第 14 巻について

- ・第 1 号を 2013 年 3 月に発行し、5 月上旬に事務局から全会員に発送した。
- ・第 2 号の台湾大会要旨集は第 1 号の続きページで始まる。
- ・第 3 号掲載予定の論文は現在 3 編査読中であり、さらに投稿を期待している。年度内に発行できる見込みである。

3. ニュースレター編集委員会より

池上委員長代理・大塚理事より説明があった。

■Vol. 16 について

- ・今年度は、Vol. 16 No. 1 から Vol. 16 No. 4 までの計 4 号を発行する予定である。
- ・縁の下の力持ちシリーズでは北海道編をスタートさせ、熊石の深層水について記事をもらっており、特集編では赤穂化成の深層水担当者に原稿を依頼している。

4. 利用促進委員会より

山田副委員長より【資料①】に基づき説明があった。

■認証・認定制度について

- ・独自に聞き取り調査を行った結果、3 団体より回答を得た。いずれにも共通しているのはこのような認定・認証制度における責任は学会や協会ではなく申請者にあるとしている。
- ・法規制その他分野に関する専門知識をもって

取り組む必要があると感じられた。

■懇話会について

- ・台湾大会の前日に開催するか否かを黄 秉益氏に問い合わせたところ、台湾側の深層水事業関係者には興味深いものであるとの回答があり、開催を準備することになった。
- ・開催日時は11月1日金曜日の夕刻を予定しており、会場は花蓮の東華大学周辺宿泊施設を考えている。通訳者も複数配置する。
- ・日本の取水地を中心に台湾への関心が強い人に参加を呼びかけるとともに、台湾の深層水関係者からはどのような人に来てもらいたいかを調査し、当日は参加者同士がより良い交流ができるよう調整することになった。

5. ホームページ編集委員会より

尾高委員長代理・大久保編集幹事より説明があった。

- ・例年通りの活動に加えて、取水施設や団体会員の情報ページを最新のものに更新していく予定である。

6. 事務局より

大塚事務局長より説明があった。

■2013年度予算案について

議案書15頁に基づき説明があった。例年と違う点は、以下の予算を組んだことである。

- ①研究発表会に例年の30万円増しで80万円
- ②利用促進委員会の項目を新たに設けて10万円
- ③今年度末に行われる理事選挙の準備として4万円

■会員の動向について

【資料②】に基づき説明があり、入会者・退会者・除名者ならびに登録抹消者について異議なく承認された。

■名誉会員規定・学会賞規定について

議案書9頁7. [3]に基づき説明があり、会則の変更等について審議をおこなった。

協議の結果、

①名誉会員規定については原案通りに総会に諮り、承認されたのち酒匂敏次前会長を名誉会員とする提案を行うことになった。

②学会賞規定については、議案書13頁(学会賞)第18条2.の文章から「必要の都度、」を削除した改定案で総会に諮ることになった。

③この学会賞は、若手研究員の奨励を目的とした賞として位置づけ、台湾大会において、第一号受賞者を選考することになった。選考委員長は深見副会長とし、選考委員は深見副会長が指名することになった。

■理事の交代について

議案書9ページ7. [1]で報告の通り、自治体枠の理事はあて職のため、人事異動に伴い今年度より高知県と沖縄県の理事が交代することになった。

■次期事務局について

大阪府立大学での事務局は今年度までとし、2014年度以降の事務局を東京都内で引き継いでもらうよう調整を進めているところである。

7. その他

■学会賞規定の審議の中で、受賞者への贈呈品等に充てる基金は、【学会賞等基金】(議案書6頁下段)に加え、【特別会計】20周年記念事業積立金(同上段)の余剰金(2017年度定期総会における本事業終了後に発生した場合)、さらに会員からの寄付金を募って準備していくことが望ましいとして、次年度の会費請求書に寄付金申請欄を設けることになった。

8. 本日の総会進行スケジュールについて

総会・講演会の司会・議長など分担を確認した。

以上